

検討会経緯の説明《振り返り》

みち、ひと…未来へ。



鵜殿ヨシ原の環境保全に関する検討会《経緯》

『鵜殿ヨシ原の環境保全に関する検討会』設置(平成25年1月10日)※12年経過

目的:鵜殿ヨシ原の良質なヨシ(筆築用ヨシ)生育環境の保全と新名神高速道路事業の両立を図る



鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会《経緯》



『鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会』設置(平成25年1月10日)※12年経過

目的: 鶺鴒ヨシ原の良質なヨシ(筆築用ヨシ)生育環境の保全と新名神高速道路事業の両立を図る

第1回検討会から第9回検討会

・筆築用ヨシ採取エリアの特定

・・・新名神高速道路計画路線から下流に60～700m離れていることを確認

・植生調査の実施(植生確認・水分析・地形/土壌分析・遺伝子分析等)・・・ 3頁

・鶺鴒ヨシの生育確認(株高速道路総合技術研究所 緑化技術センター)

・・・鶺鴒ヨシの穂ダネから発芽・生育することを確認

・新名神高速道路の影響確認

・・・日照障害及び構造物(橋脚)の配置により想定される地下水変動が筆築用ヨシ採取エリアに及ぼす影響がないことを確認

・橋梁形式、基礎構造の決定・・・ 4頁

・モニタリング調査方針と項目の決定・・・ 5頁

植物WG



第9回検討会(H29.5.17)以降

・モニタリング調査を実施

モニタリングWG



・・・筆築用ヨシの採取が継続的になされているかを採取者ヒアリングも含め確認

・・・影響評価が可能となるように生育調査と生育環境調査を実施

地中内を改変する工事完了(R5.11)

・水分関係に影響を与える可能性がある施工が完了



第10回検討会: ①モニタリング調査結果報告 ②水分関係の影響評価

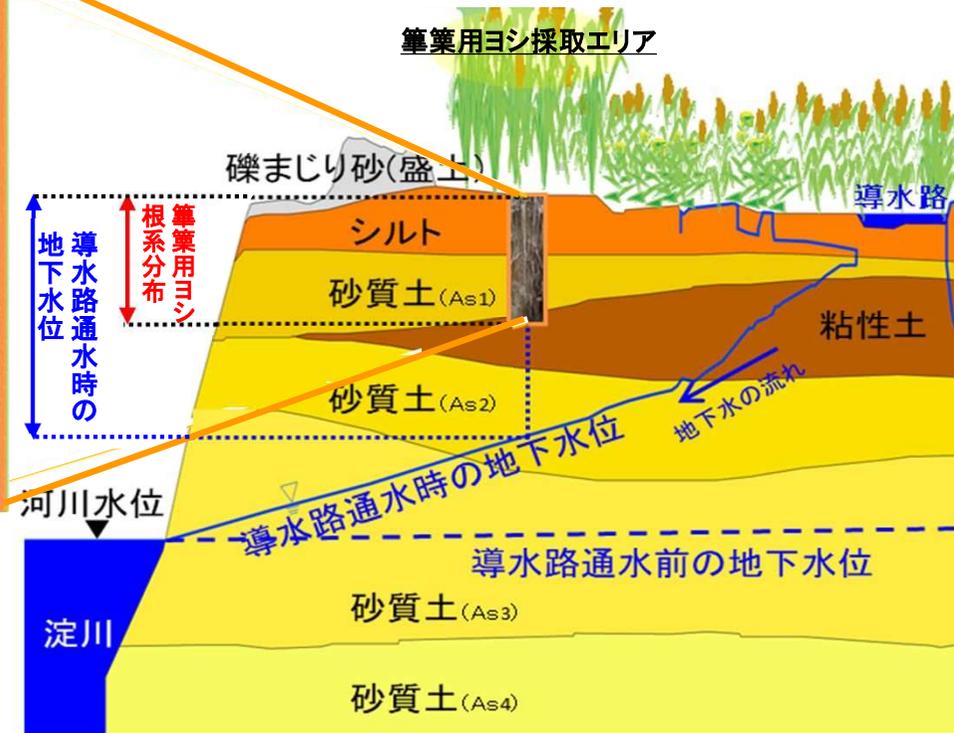
これまでの検討会での分析結果《植生調査》

分析項目	分析結果(第9回検討会まで)
① 植生確認	<ul style="list-style-type: none"> ・採取エリアは陸域のヨシ・オギ群落。 ・陸域のヨシは水域に比べ、草丈・茎径・肉厚・比重が大きい。
② 水分析	<ul style="list-style-type: none"> ・根系への水分供給は雨水が中心 ・導水路からの浸透水は河道側に向かって横断方向に流れている。 ・導水路への通水で、筆管用ヨシ採取エリアの根系分布深さまでの土壌水分量に変動はない。
③ 地形/土壌分析	<ul style="list-style-type: none"> ・柔らかなシルト層と砂質土層が中心。土壌の化学成分も他エリアと明確な違いはない。
④ 遺伝子分析	<ul style="list-style-type: none"> ・DNA分析調査の結果、筆管用ヨシは特定のクローン(遺伝子的に同一の個体)のヨシではないことを確認

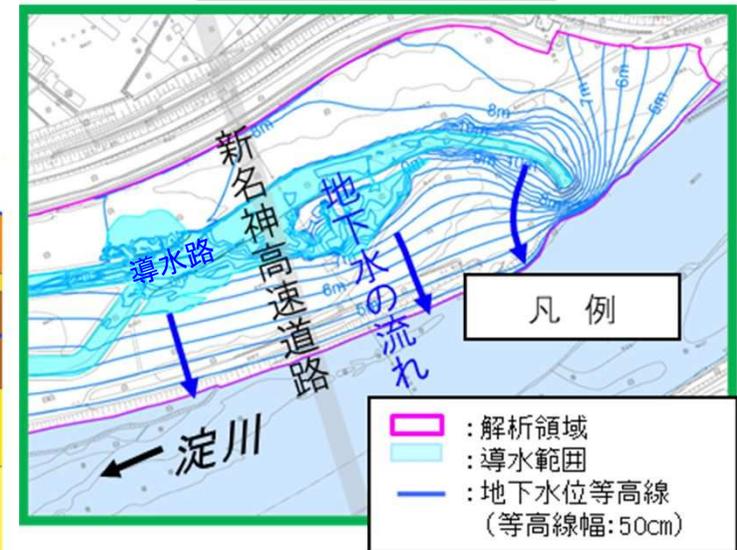
▼【拡大写真】筆管用ヨシ根系分布



◆ 筆管用ヨシの生育環境模式図



◆ 浸透流解析の結果



これまでの検討会での検討事項《橋梁形式、基礎構造の決定》

■ 鵜殿ヨシ原の環境保全に対する配慮事項

鵜殿ヨシ原の環境保全に関する検討会

目的：雅楽で使用される鵜殿ヨシ原の良質なヨシ生育環境の保全

【設計段階での配慮事項】

- 筆簾用ヨシ採取エリアを改変しない構造とする。
- 鵜殿のヨシ原の自然環境にも配慮して、「ヨシ原の改変をできるかぎり低減する構造」「導水路機能を確保する構造」とする。

【施工段階での配慮事項】

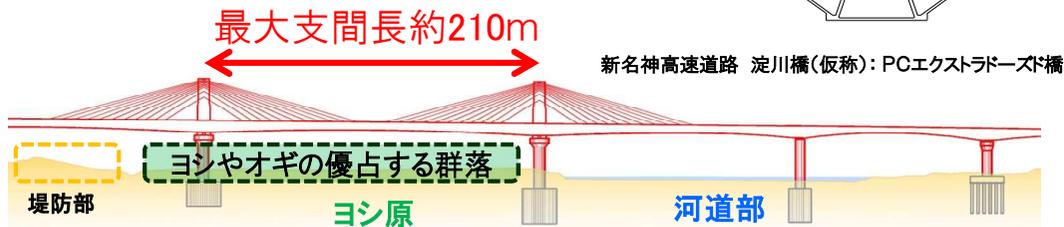
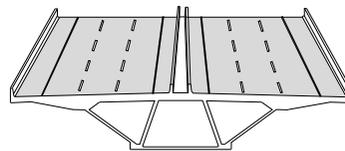
- 施工・資材ヤードの配置は、筆簾用ヨシ採取エリア外とする。
- 工事に伴う車両の進入等は、筆簾用ヨシ採取エリアのある新名神計画路線の下流側からは行わない施工計画とする。
- 鵜殿のヨシ原の自然環境にも配慮して、ヨシ原の改変をできるかぎり低減する施工計画とする。
- 工事中も導水路の機能を確保する施工計画とする。
- 筆簾用ヨシ採取エリアについてモニタリングを実施する。

▼ 橋梁形式の決定

⇒ **エクストラードズ橋**という形式を採用することにより、
橋脚の間隔を約210mとすることで橋脚の数を減らし、改変範囲を低減

支間長：約210m
架設方法：張出し架設

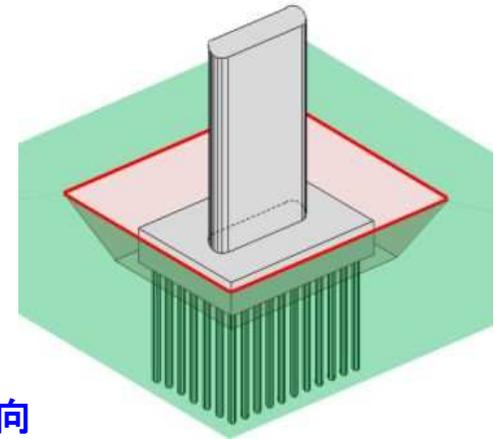
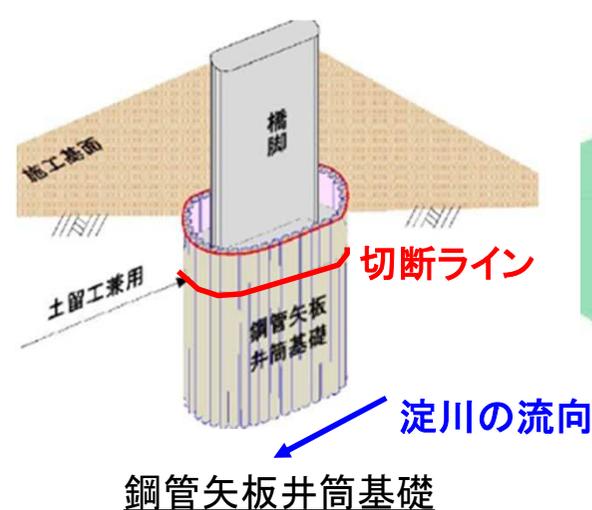
▼ 上部工構造



新名神高速道路 淀川橋(仮称): PCエクストラードズ橋

▼ 基礎構造の決定

⇒ **鋼管矢板井筒基礎**を採用することにより、掘削範囲等の改変範囲を低減



【参考】一般的な基礎工

これまでの検討会での検討事項《モニタリング調査方針の決定》



【目的】淀川橋(仮称)施工中および施工後の鵜殿ヨシ原におけるヨシを含む生育環境の把握

- ・過去の検討会結果より、地下水位及び土壌水分に関して、工事が筆築用ヨシに与える影響は無いことを確認
- ・ただし、施工に伴い鵜殿ヨシ原の一部が改変域となるため、評価・検証の基礎データとして工事着手後も調査を継続

■ モニタリング調査内容

	調査対象	調査項目	これまでの調査による確認内容	モニタリング内容
採取状況確認	採取エリア	採取位置	道路計画域より約60m下流側に位置	採取エリア位置の状況確認

✦ 評価・検証の基礎データ収集

	調査区分	調査対象	調査項目	これまでの調査による確認内容	モニタリング内容
生育状況確認	生育調査	ヨシの生育	植生分布	採取エリアは、ヨシ・オギ群落に存在	ヨシ生育域の状況確認
			草丈・茎径	陸域ヨシは、草丈が高く、茎径が太い	
			生育密度	筆築用ヨシは、相対的に生育密度が低い	
	生育環境調査	気象調査	気温・降水量	瀬戸内海気候に属し、温暖少雨な地域	基本的な生育環境条件の把握
			水分調査	土壌水分	根系の分布範囲において、降雨に依存して変動
		地下水		根系の分布範囲より、深い位置に形成	導水路通水時の地下水位を確認

▼採取状況の確認



▼草丈・茎径の確認



▼水分調査データ回収



これまでの経緯と第10回検討会の進め方《本日の内容》



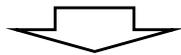
■これまでの経緯【実施したWG】

■第9回検討会（H29.5.17）以前

- ① ヨシの生育の現状調査及びヨシを保全するための配慮事項をとりまとめ【植物WG】

■第9回検討会（H29.5.17）以降

- ② 鶺鴒ヨシ原の環境に関するモニタリング計画(案)【モニタリングWG(新たに設置)】



(モニタリングWGの設置目的)

- 淀川橋(仮称)施工中・施工後のヨシ原におけるヨシを含む植物生育環境の把握(実施内容)
- 筆築用ヨシの採取状況および植物生育状況に関する調査
- 調査結果を評価・検証

■本日の検討会の進め方

■第10回検討会(今回)

- ① 工事状況報告(下部工基礎部の完了)



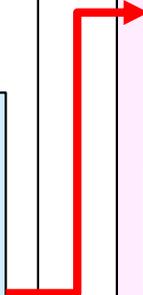
- ② モニタリング調査の結果報告(採取状況 + 生育調査 + 生育環境調査)



- ③ 下部工基礎部の影響評価まとめ(地下水位 + 土壌水分)



- ④ 今後の予定



令和5年度までに橋梁下部工における基礎部の施工が完了したことから、第10回検討会では、第9回検討会で決定したモニタリング調査項目の調査結果について報告し、筆築用ヨシの生育環境に対する新名神高速道路事業の影響について評価する。